

2024 年度事業計画 中間・年度末報告（点検・評価シートより図書館部分を抜粋） 部門：図書館

2025 年 1 月末現在

C. 本学の社会的責任の明確化とその実現	本学の教育理念は、一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深めることにあ る。学生個人に留まらず、大学全体が社会との連携を深め、その持てる資源を活用して社会的課題の解決と関わるため、次の事業を進める。
----------------------	--

C-1. 社会的責任・社会連携の推進

計画 NO	中期計画
C-(1)-4)	学外の教育研究機関および企業・団体、地方公共団体等との連携・交流を推進し、教育研究活動等の成果を社会の要請に結び付け、地域社会や国際社会の発展と課題解決に貢献

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
1	図書館資料展示会、講演会開催による 地域(社会)との連携強化	図書館企画展示として、第 1 回、第 2 回教員おすすめ図書展示、加えて「聖心生、本と出会う。」図書コーナー、「学生選書」図書コーナー設置を実施した。
		現状（年度末） 上記に加え、第 3 回教員お薦め図書展示、また、「中村哲医師 没後 5 年」関連図書コーナー設置、学生製作の POP 展示・投票大会を実施した。
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
2	他大学・機関との利用提携を拡大し、 学術情報の効率的な利活用体制を構築	6 月 28 日に聖マリア学院大学(久留米市)にて 5 年振りに対面開催された、日本カトリック大学・短期大学連盟図書館協議会の総会と研究大会に参加し、コロナ後の新たな体制の構築に向けて相 互理解を得た。なお、次年度は本学を含む南山・白百合・東京純心が幹事校となる。
		現状（年度末） 同上

D. アドミッション・ポリシーに適合した学生の安定的確保	本学の教育理念や方針を理解した学生の確保は、ディプロマ・ポリシーに基づく質保証を維持する上で重要な要件である。また、同時に、大学の経営上、安定的な学生数の確保 も極めて重要なテーマであり、国レベルの大学入試改革が進む中、今後の入試および学生募集の方法に関しては、改めて検討していく必要がある。また、大学院においては定員 を満たしていない専攻があり、大学院の将来構想と関連付けた充足率の向上に向けた対応を進める。
------------------------------	---

D-1. AP に適合した学生の安定的確保

計画 NO	中期計画
D-(1)-4)	アドミッション・ポリシーに適合した学生の募集に向けた広報強化

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
1	入学手続者への入学前利用サービスを 継続し、高大教育連携を推進	—（後期に実施）
		現状（年度末） 入学者獲得に寄与するため、入学許可者及び入学試験合格者全体に入学前利用を告知している。2 月以降に実施のため、1 月末現在では報告不能。現時点で事前申し込み 1 名。
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
2	高校生への通年にわたる図書館開放を 実現し、高校教育の質保証と入試活動 を支援	高校生への図書館開放は 2020 年度以降休止していたが、入試活動支援及び地域貢献の一環として、昨年度再開し、本年度も 2024 年 8 月 1 日より 9 月 6 日まで女子中学生・高校生への図書館開 放を実施。酷暑にもかかわらず指定校等から 14 人の来館利用があった。
		現状（年度末） 上記にて報告済み。

E. 教育研究を活性化するための環境・支援体制の充実	本学の理念に基づく教育研究活動や社会的貢献活動を推進するため、図書館、グローバル共生研究所、キリスト教文化研究所、心理教育相談所を設置するとともに、学生、教員の研 究活動を支援する窓口を設けている。
----------------------------	--

E-1. 主体的学習と教育研究活動の支援

計画 NO	中期計画
E-(1)-1)	客観的指標に基づく利用者主体の図書館の実現

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
1	学生サポーターを活用した、ラーニング・コモンスの環境整備・支援体制構築を継続	学生サポーターとして主に学部生を対象とした学修サポートをするための大学院学生スタッフおよび図書館 Eco サポーター等の学生スタッフ募集は休止している。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
2	学部生・大学院生を対象とした情報リテラシー教育の展開(授業・演習への支援参加、ガイダンス実施の継続)	基礎課程演習全 28 クラス、国際交流学科国際文化協力演習(3 年 5 名)、日文ゼミ(4 年 9 名)、国際交流学科ゼミ(4 年 7 名、3 年生 6 名)に対して対面形式にて図書館ガイダンスを実施した。授業担当者と綿密な連携を図り、学生アンケート結果も好評である。
		現状（年度末）
		上記に加え、後期には人間関係学科共通演習(2 年次 73 名)、英語文化コミュニケーション学科 Academic Writing2(2 年、65 名)に対して、対面形式での情報検索ガイダンスを実施し、受講者アンケート結果も好評であった。年度内には 2 月 20 日にも英文 3 年ゼミ対象情報検索ガイダンスを実施予定。
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
3	学生利用者の要望に迅速対応、学生提案企画の採用など学生との協働推進を継続	学生からの利用に関するメールによる問合せ(電子資料等の利用方法・開館時間や貸出に関する質問)に、すべて迅速に対応している。書店での学生選書ツアーを、昨年につき、学生有志 5 名の参加を得て 8 月 3 日に実施、書店での学生選書展示及び POP 展を 9 月 30 日から 10 月 14 日まで開催予定。
		現状（年度末）
		上記に加え、図書館内での学生選書・POP 展・投票大会を 11 月から 12 月 20 日まで開催した。
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
4	一般教養書・学習支援書の積極的収集と指定図書・授業用参考資料制度継続実施により学生が自ら行う調査、学修のための基礎資料の整備を継続	9 月末現在、学生から 112 件（前年度比 35 件増加、1.45 倍）の購入希望が寄せられ、2019 年度比 1.96 倍に達した。ガイダンス等を通じての、My Library 経由での購入希望申請システム周知の成果と思われる。
		指定図書制度の利用は、0 クラス(前年度比 1 クラス減少)、図書冊数 0 冊(前年度比 1 冊減少)であった。
		授業用参考図書制度の登録数は、318 クラス(前年度比 56 クラス増加)、図書冊数 644 冊(前年度比 17 冊増加)であった。内、購入冊数 36 冊、購入経費 91,761 円。教員からの希望(2 年次以上が受講対象の授業)は 18 クラスであった。
		現状（年度末）
		1 月末現在、学生から 219 件(前年度比 94 件増加、2019 年度比 2.3 倍)の購入希望が寄せられた。
		指定図書制度の利用、授業用参考図書制度の登録数は前期の報告内容と変更なし。
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
5	各学問分野の専門研究図書の積極的収集	学外から容易に選書・購入依頼ができる仕組みを整備した。
		教員からの購入依頼件数は、207 件(前年度比 83 件増加、1.67 倍)、(2019 年度比 65%)に留まったが、My library からの購入依頼件数は、185 件(前年度比 66 件増加、1.55 倍)、(2019 年度比 5.29 倍)となっている。教員の購入希望申請が紙媒体利用から My Library 利用へと移行した。
		選書システム My PLATON による教員からの購入希望図書依頼件数は 238 件(前年度比 11 件減少、95.6%)、(2019 年度比 62.8%)
		現状（年度末）
		1 月末現在、教員からの購入依頼件数は、318 件(前年度比 18 件増加、1.14 倍、2019 年度比 54.3%)だが、内 My Library からの購入依頼件数は、287 件(前年度比 87 件増加、1.44 倍、2019 年度比 3.42 倍)となり My Library の利用の活発化が見られる。
		選書システム My PLATON による教員からの購入希望図書依頼件数は 331 件(前年度比 28 件増加、1.09 倍、2019 年度比 58.6%)であった。
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）

6	オンラインデータベース・電子ジャーナル・電子ブックの体系的整備と利用環境の最適化	出版社およびアグリゲーターからの学外アクセス用ID・PW提供は有償のため、経費面で契約していない。引き続きVPN接続を継続し、オンラインデータベース学外アクセス環境の維持に努めている。
		現状（年度末）
		次年度に向けて、情報企画推進課との協働により、学外からのデータベース利用環境改善に向けて、各データベースの取次店や版元に対し、学認またはShibboleth認証による機関認証可否の調査及び設定を進めている。
2024年度事業計画（部門別）		現状（中間）
7	図書館情報システムの機能強化(業務効率化とICT活用による情報資源の効率的利活用への取り組み)による利用者サービス充実の促進	電子ブックの書誌情報をOPACへ反映させ、利便性をあげる仕組みを構築中。 OPAC検索回数は81,387回(前年度比8,918回増加、1.12倍)、My Libraryへのログイン回数は17,380回(前年度比747回増加、1.04倍)。COVID-19以前の2019年度と比較すると、OPAC検索回数は41.1%、My Libraryへのログイン回数は70.3%に留まっている。
		現状（年度末）
		1月末現在、OPAC検索回数は151,148回(前年度比23,858回増加、1.19倍)、My Libraryへのログイン回数は26,699回(前年度比2,616回増加、1.11倍)。コロナ禍以前の2019年度と比較すると、OPAC検索回数は63%、My Libraryへのログイン回数は90.8%まで回復した。
2024年度事業計画（部門別）		現状（中間）
8	保有資料のデジタル化を促し、デジタルアーカイブ構築と利活用、知的生産物の長期保存に貢献する	本学デジタルギャラリーにて公開すべき電子化候補資料を選定中。
		現状（年度末）
		デジタルギャラリーの利活用としては、学外からの利用申請に応じ、一般社団法人ふらすこへ「摂州平野郷図」データを提供した。年度内に静岡県文化財課へ「遠江国相良城図」、新潟大学大学院へ「播磨国赤穂旧図」「備後国福山図」「備後国福山城下図」のデータを提供準備中。
2024年度事業計画（部門別）		現状（中間）
9	キリスト教文化研究所と連携し、「岩下文庫」の研究調査活動に参加協力	キリスト教文化研究所の事業に合わせ、「岩下文庫」目録の電子化を進め、1,072件についてOPACに公開済み。
		現状（年度末）
		同上
2024年度事業計画（部門別）		現状（中間）
10	複数の図書館出入り口継続設置による動線確保と夜間開館・自動貸出返却装置設置継続により、図書館利用の利便性を継続確保	入館者数は19,116人(前年度比284人減少、98.5%)、貸出人数は3,886人(前年度比59人増加、1.02倍)、貸出冊数は8,752冊(前年度比207冊減少、97.7%) 昨年度に引き続き通常開館しているため昨年度に比べ利用率が回復してはいるが、コロナ禍以前の2019年度と比較すると、入館者数は59.9%、貸出人数は79.7%、貸出冊数は76.9%である。 前年度末に入退館相互認証システムを導入。
		現状（年度末）
		1月末現在、入館者数は32,578人(前年度比人99人減少、99.7%)、貸出人数は6,679人(前年度比25人増加、貸出冊数は15,068冊(前年度比242冊減少、98.4%)。コロナ禍以前の2019年度と比較すると、入館者数は57.1%、貸出人数は75.4%、貸出冊数は70.7%に留まる。
2024年度事業計画（部門別）		現状（中間）
11	書庫スペースの有効利用推進による図書館内空間の利用機能見直し	昨年度に引き続き、A書庫およびB書庫BF1の換気対策に加え、閲覧室等の水漏れ対策が最優先事項となり、書庫スペース有効利用は計画を中止している。
		現状（年度末）
		同上
2024年度事業計画（部門別）		現状（中間）
12	アクティブ・ラーニングを実現するための、図書館施設を含む1号館の学習環境整備	将来キャンパス整備がなされるまでの期間、1号館1階に位置する現状の施設を図書館利用者へ最適な環境として整えるため、時代に見合った施設・設備に関する情報を収集。
		現状（年度末）
		同上

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
13	学内外の知の集積拠点である施設としての観点のみならず、学習支援や教育研究に関する機能の観点からの図書館の位置付けの明確化	非来館による図書館利用者の割合が増加している。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
14	中長期的サービス基本計画と評価指標の設定（客観的評価指標の開発による効果の分析・検証）	学修環境の充実という観点から客観的評価指標を作成中。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
15	大学全体予算の一定の割合を図書館経費として確保	基本的学術資料に係る経費について、従前は年度限り予算とされていたものが本年度より一部経常費に組み込まれた。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
16	洋雑誌、電子ジャーナル、電子ブックに係る経費の適正化	洋雑誌購読タイトル数とオンラインデータベース契約数について検討を継続。電子ブックの積極的導入を実施するための予算配分を調整中。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
17	図書館委員会活動の積極的展開による、関係諸規程整備と大学における図書館の位置づけの明確化	関係諸規程等、事案を継続して処理中。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
18	図書館委員会活動を通じた、学士課程及び大学院課程各専攻との連携協力関係の推進	すべての事案を連携させ積極的に推進中。
		現状（年度末）
		同上

計画 NO	中期計画
E-(1)-5)	教育研究の質的向上に向けた支援体制の強化

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
1	機関リポジトリのコンテンツを充実し、学術情報データの公開と流通を推進	『聖心女子大学論叢』掲載論文 4 件、（『聖心女子大学大学院論集』は年 1 回発行となったため前期は 0 件）、『宗教と文化』掲載論文 3 件の登録を終了。
		現状（年度末）
		上記に加え、後期に『聖心女子大学論叢』掲載論文 4 件、『聖心女子大学大学院論集』掲載論文 7 件を登録。

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
2	研究成果公開の具体的運用方法を整備 （オープンアクセス方針策定後の運用 整備	『聖心女子大学論叢』のバックナンバー登録に関連し、電子化・公開に係る著作権の利用許諾処理を継続して実施する。
		現状（年度末）
		同上

G. 大学運営のための人的・物的・資金的基盤の整備	「現代教養学部」への学部名変更、グランドデザインに基づく教育研究機能の改革・強化を進めていくために、今後、一定の資源が必要になる。大学が利用可能な資源の現状把握とともに、それらを効率的に利用するための合理的な配分計画を進める。
---------------------------	---

G-2. 人的基盤の充実化

計画 NO	中期計画
G-(2)-6)	効率的かつ効果的な業務処理・遂行のための事務組織や事務体制の見直し

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
1	学術情報流通の仕組みを理解し、学術情報基盤を構築する能力をもつ職員の確保	学術情報基盤を構築する能力をもつ専任職員の確保がなされていない。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
2	教育研究支援を円滑に行い図書館全体のマネジメントができる職員の育成	オンラインを含む研修等により職員の能力向上と専門職員の育成を行っている。
		現状（年度末）
		同上
2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
3	大学図書館業務の特殊性を考慮した職員の育成・確保	オンラインを含む研修等により職員の能力向上と専門職員の育成を行っている。2024 年度は 8 月 28 日～30 日に NII 主催「大学図書館員のための IT 総合研修」（オンライン実施）に専任職員 1 名が参加し、所定の課程を修了した。
		現状（年度末）
		同上

計画 NO	中期計画
G-(2)-8)	同窓会（宮代会、JASH 等）や姉妹校との連携強化による本学の教育活動の実効性の向上

2024 年度事業計画（部門別）		現状（中間）
1	卒業生、学生父母への利用サービスを継続し、新たな学修ニーズに対応	2023 年 5 月の来館利用を再開後、来館利用に対応中。学修ニーズへの対応の一環として、姉妹校であるインターナショナルスクールからの要請により、共同利用可能なオンラインデータベースについて共同利用を継続している。
		現状（年度末）
		同上